読響 Yomiuri Nippon Symphony Orchestra

常任指揮者 セバスティアン・ヴァイグレ

ウィーン国立歌劇場、METなどで活躍するドイツの名匠

チェロ 北村 陽

次々と国際コンクールで優勝し、欧州で注目を浴びる新星

神々よ。
夜の大地はなんと悲しいのだろう。
暗闇は森を黒い布で覆い、
街では哀しげな燈火がともる。

あの20世紀ソ連を生き抜いた、
ショスタコーヴィチ最後の交響曲。
描いたのは 人生という混沌か、
あるいは 来世への羨望か。

グリンカ：幻想曲「カマリンスカヤ」

ハチャトゥリアン：チェロと管弦楽のためのコンチェルト・ラプソディ

ショスタコーヴィチ：交響曲第15番 イ長調 作品141

YNSO Subscription Concert No. 652
Tue. 21 Oct. 2025, 19:00 Suntory Hall
Conductor= SEBASTIAN WEIGLE
Cello= YO KITAMURA
GLINKA: Kamarinskaya
KHACHATURIAN: Concerto-Rhapsody for Cello and Orchestra
SHOSTAKOVICH: Symphony No. 15 in A major, op. 141

読売日本交響楽団 第652回 定期演奏会
2025 10/21(火)19:00 サントリーホール

S ¥8,800 A ¥7,700 B ¥6,600 C ~~¥5,000~~ SOLD OUT

読響チケットセンター 0570-00-4390(10時－18時・年中無休)

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団
助成：文化庁 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))
独立行政法人日本芸術文化振興会
協力：アフラック生命保険株式会社

ヴァイグレが ショスタコーヴィチの "自伝的作品"の神髄に迫る。

新星チェリスト 北村が 超絶技巧を披露し、 会場を熱狂へと誘う。

セバスティアン・ヴァイグレ 常任指揮者

2019年4月から読響第10代常任指揮者を務めるドイツの名匠。ベルリン国立歌劇場管の首席ホルン奏者として活躍後、指揮者に転身。バルセロナのリセウ大劇場とフランクフルト歌劇場の音楽総監督として手腕を発揮し、高い評価を得た。バイロイト音楽祭、ザルツブルク音楽祭、ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、ベルリン国立歌劇場、バイエルン国立歌劇場、ドレスデン国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、英国ロイヤル・オペラ、ベルリン・フィル、ウィーン響、ベルリン放送響などで活躍している。権威あるドイツの専門誌「オーパンヴェルト」の年間最優秀指揮者などを受賞。昨年10月には読響の欧州ツアーを成功に導いた。

ショスタコーヴィチは、謎に満ちた作曲家だ。この作曲家が今も、日本の音楽ファンを魅了して止まない理由は、どこに本心があるのか分からないような、多様に解釈が可能な奥深さにあるのかもしれない。

旧東ドイツのベルリン生まれの常任指揮者ヴァイグレは、ロシア語の文化には幼少から触れており、ロシア音楽にも力を注いできた。ショスタコーヴィチ作品では、フランクフルト歌劇場で歌劇「ムツェンスク郡のマクベス夫人」で大きな成功を収めたほか、読響とも2021年に交響曲第5番で透明感あふれる鮮烈な響きを生み、好評を博した。

今回、ショスタコーヴィチの最後の交響曲となった交響曲第15番を取り上げる。この曲には、ロッシーニの歌劇「ウィリアム・テル」序曲やワーグナーの楽劇「ニーベルングの指環」の"運命の動機"、グリンカの歌曲など多くの引用があり、自作からも引用している。当時65歳の作曲家は、体調を崩したことから死を意識し、この曲を"自伝"として書いたとも言われている。無垢な少年を表すかのようなおどけた音楽、絶望を表すかのような厳粛な響き、悲しみを嘆きながらも達観したようなチェロの独奏など、重層的で深遠な音楽はこの作曲家らしい大きな謎に満ちている。最後の打楽器は、永遠に時が刻まれ、その中で天国に昇華されるようでもある。ショスタコーヴィチ作品にも通じたヴァイグレは確固たる解釈により、この謎めいた交響曲の神髄に迫るだろう。

前半には、相次いで国際コンクールで優勝し、欧州でも注目を浴びる新星チェリストの北村陽が登場し、ハチャトゥリアンの隠れた名曲「コンチェルト・ラプソディ」を弾く。ハチャトゥリアンは1963年に来日し、読響で自作を指揮するなど読響とも縁の深い作曲家。北村は、エキゾチックな旋律をたっぷりと歌いあげ、類稀なる音楽性を発揮する。高音で細かなパッセージが連続する部分での超絶技巧に、会場は大いに沸くだろう。

1曲目は、"ロシア音楽の父"と呼ばれる作曲家グリンカによる幻想曲「カマリンスカヤ」。ロシア民謡を素材とした初の管弦楽作品とされる重要な作品だ。ヴァイグレは活気にあふれたリズムと豊潤なサウンドを引き出し、ロシア音楽の魅力を存分に表すだろう。

北村 陽 チェロ

世界へと羽ばたく新星チェリスト。2023〜24年にブラームス国際、エネスコ国際、カザルス国際賞と3つの国際コンクールで優勝。英国の専門誌「ストラド」で「卓越した音楽的才能の持ち主」と絶賛された。日本音楽コンクールでは第1位と5つの賞を受賞。17年、若い音楽家のためのチャイコフスキー国際コンクールで優勝。20年には井上道義指揮、読響と共演し好評を博した。出光音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、ホテルオークラ音楽賞、アリオン音楽賞などを受賞。現在、ベルリン芸術大学で学んでいる。江副記念リクルート財団、ローム・ミュージック・ファンデーション奨学生。使用楽器は上野製薬株式会社より貸与された1668年製カッシーニ。

読売日本交響楽団 第652回 定期演奏会

2025年10月21日〈火〉19時開演

サントリーホール 東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥8,800／A ¥7,700／B ¥6,600／C ~~¥5,000~~ SOLD OUT

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証／25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。 ■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。 ■ご購入いただいたチケットは、公演が中止になった場合以外でのキャンセル・払い戻しはできません。あらかじめご了承ください。 ■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390
＊10時−18時・年中無休

読響チケットWEB https://yomikyo.pia.jp/
＊座席選択可／チケット郵送料無料

プレイガイド	サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017	読響ホームページ	https://yomikyo.or.jp/